

原価計算論		教授 安藤 鋭也	
科目カテゴリー	経営・経済コースの専門選択科目 会計ファイナンスコースの専門選択科目 教職科目	科目ナンバリング	23022201 25320211

1. 授業のねらい・概要

原価計算とは、特定の単位である製品などについて、どのような原価がどれだけかかっているかを集計計算し、明らかにする理論・技術です。それによって経営者は、経営方針を決定する際に必要なデータを入手します。このように

原価計算は、経営者の意思決定に関与し、企業経営において重要な役割を果たしています。

本講義は、(1)原価計算の理論を理解する上で必要な基本用語の説明を丁寧に行い、(2)原価計算の理論・技術を単に解説するだけではなく背景や必要性にもふれ、(3)原価計算という実践可能なスキルを身につけてもらうことがねらいです。

2. 授業の進め方

授業はテキストに沿って進めます。授業では原価計算の基礎を整理した上で、例題と練習問題にも取り組みます。授業を通して、適切な理解に加えて実際に計算ができるようになることを目標とします。

3. 授業計画

1. ガイダンスー原価計算の基礎ー	9. 個別原価計算
2. 材料費の計算	10. 総合原価計算
3. 労務費の計算	11. 標準原価計算(1)意義と目的
4. 経費の計算	12. 標準原価計算(2)差異分析
5. 経費計算	13. 直接原価計算(1)意義と目的
6. 製造間接費の計算	14. 直接原価計算(2)CVP分析
7. 部門別原価計算	15. 全体のまとめ及び期末試験
8. ここまでのまとめ及び中間試験	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の講義を受講するまでに、前回の内容をテキストで丁寧に復習して下さい。準備学修では出来るだけ疑問点を残さないよう1時間程度の時間は必要です。準備学修の結果、もう少し説明して欲しい箇所があれば、遠慮なく次回申し出て下さい。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

例題と練習問題は都度の講義で解説します。中間試験と期末試験も試験実施の際、解答のポイントや出題意図を（試験）終了直後に解説します。

6. 授業における学修正解は必ずしも1つとは限りません。の到達目標

毎回の授業で取り組む例題と練習問題を通して、原価計算論の理論・技術を修得することが目標です。

7. 成績評価の方法・基準

平常点（30%）、中間試験（30%）、期末試験（40%）の割合で総合的に評価します。

8. テキスト・参考文献

上埜進編著『工業簿記・原価計算の基礎—理論と計算—[第4版]』税務経理協会、2017年、定価：2,800円＋税。

9. 受講上の留意事項

皆さんの積極的な参加を心から歓迎します。双方向のコミュニケーションを通して原価計算を身につけましょう！